

# 財 政 事 情

「もったいない」で拓く滋賀の未来



平成19年（2007年）11月

滋 賀 県

## 滋賀県の姿

(  内の順位は、全都道府県中数値の大きい方からの順位です。)

総面積 4,017.36 k㎡ **38位**

(うち琵琶湖の面積 670.25 k㎡)

\*H18.10.1国土地理院

(滋賀県の総面積は総務省統計局)



市町数 13市13町 (H18.3.20~)

人口 1,380,361人 (H17.10.1現在)

**31位**

増加率 2.8% (対H12.10.1現在)

**5位**

世帯数 479,217世帯 (H17.10.1現在)

**32位**

増加率 8.8% (対H12.10.1現在)

**2位**

一般世帯平均人員 2.85人 (H17.10.1現在)

(3.02人 (H12.10.1現在))

\*人口、世帯数は総務省統計局「国勢調査」

平成19年10月1日現在(滋賀県統計課)

人口:1,394,809人、世帯数:516,221世帯

県民所得 323.5万円 (県民1人当たり)

**4位**

\*内閣府「平成16年度県民経済計算」

実質経済成長率 4.0% (県内総支出(実質)へ-)

**6位**

\*内閣府「平成16年度県民経済計算年報」

県内総生産における第2次産業の占める割合 46.8%

**1位**

\*内閣府「平成16年度県民経済計算年報」

## 表紙の絵

「畔木の秋」(野口謙蔵・昭和16年制作)

滋賀県立近代美術館所蔵

野口謙蔵(のぐち・けんぞう)は、滋賀県蒲生郡桜川村(現東近江市)に生まれ、生涯故郷蒲生野の自然や人々の暮らしなどを、愛情込めて描き続けた滋賀県を代表する洋画家です。

この作品は、右上からの秋の柔らかい陽光に照らされた大地の実りをテーマとしていますが、その光線を見事に意識し、大地や立ち並ぶ畔木は、立体的な量感を巧みに感じさせています。また、左上には黒や青で画面に程よく変化をもたせ、秋の午後の田園風景として独特の主張があり、完成度も極めて高い作品です。この時期の作品のなかでも、これに類するものは確認されておらず、謙蔵の多様な画風と、豊かな才能をよく表した作品です。